

# 合唱組曲

## 「利根川源流讃歌」

猪熊 道子 作詞  
大西 進 作曲

### 1 利根川水源地

一、はるかかなた 澄みわたる空のもと  
上州最北端 利根川水源地  
おのみなかみやま  
大水上山の 三角雪渓  
太古からの 雪解け水が  
尽きることなく 湧き出すところ

二、はかなた 奥利根湖の奥の奥  
越後国境い 原始の深い森  
急峻なる沢 幾筋渡り  
雪橋越え 滝を登り  
ようやく辿り着く 天上の楽園

三、はるかかなた 山男の憧れの地  
人跡未踏 聖なる秘境の地  
探検隊の 歴史を重ね  
「利根川水源」 碑を建てる  
日本一の 水源地  
大自然の 真っ只中

### 2 利根源流ダム

一、県境に高く 連なる嶺のもと  
関東一の豪雪地  
藤原地区は 水源の里  
原生林に囲まれて  
利根源流ダム誕生 誕生

二、藤原・須田貝・奈良俣・矢木沢  
湖底に眠る村のこと  
建設にかけた 男の情熱  
幾多の苦勞 幾多の犠牲  
ダム湖は語らず 澄みわたる

三、利根源流ダムは 洪水を防ぎ  
電気おこし 田畑つるおす  
工業用水 くらしを守り  
黙って使命 果たします  
三千万人の 生命いのちささえて

四、利根源流ダムを 見守る  
「利根川ダム統合管理事務所」  
雨量 水量 流量測り  
水位 水質 検査して  
夜も風も ダム見守る  
夜も風も ダム見守る

### 3 殉職の君

一、山奥の巨大なダムよ  
高く長き堰堤を  
君と共に歩んだ記憶  
遠き日の夢かまぼろし

二、堰堤が長く果てなく  
続くことを祈りつつ  
君と手をとり歩んだ記憶  
夢はもう還らない

三、何も語らず散った君よ  
ダムは巨大な壁となり  
私の胸を圧しつぶす  
ダム湖よダム湖なぜ黙す

四、夢を追いまぼろい求め  
長き堰堤ひとりゆけば  
蒼いダム湖をわたる風に  
やさしい君の声かすか  
やさしい君の声かすか

#### 4 ダム湖に祈る

- 一、 ああ 県境の分水嶺  
白き嶺より流れくる  
いく筋沢の水あつめ  
山奥深くひっそりと  
鎮まるダム湖に祈ります
- 二、 ダムの底には村もあり  
神社やお寺 田畑  
祖先の歩いた草の道  
橋や学校 温泉さえも  
みんな沈んで ゆきました
- 三、 反対せねばと村人が  
毎日のように集まった  
広場もはるかダムの底  
茅葺屋根に囲炉裏端  
昔ばなしも 消えてゆく
- 四、 すべてを見てきた一人の古者  
今は静かに語ります  
駄菓子 かびくま お面の並ぶ  
昔のまつり なつかしい  
赤い鳥居も目に浮かぶ
- 一、 ああ 県境の分水嶺  
白き嶺より流れくる  
いく筋沢の水あつめ  
山奥深くひっそりと  
鎮まるダム湖に祈ります

#### 5 藤原の郷

- 一、 水のふるさと水上の町  
藤原の郷 ダムの里  
藤原 須田貝 奈良俣 矢木沢  
四つの巨大な ダムの里
- 二、 水のふるさと水上の町  
藤原の郷 ダムの里  
春夏 秋冬 光る水  
ダム湖に映える碧き山
- 三、 水のふるさと水上の  
藤原の郷 ダムの里  
ダム湖の底永遠の  
湖底のふるさと眠るところ
- 四、 水のふるさと水上の  
藤原の郷 ダムの里  
「利根の源流（を）守る」  
碑を建て  
「水守の像」建つところ

#### 6 利根源流の男たち

- 一、 知っていますか 義明よしあきさんのこと  
雪深い藤原のくらしの歳時記  
「おれの村」本にまとめた人
- 二、 知っていますか 正三まさみさんのこと  
山が好き 沢が好き 熊追い魚とり  
雪山に夜を明かした人
- 三、 知っていますか 秀市ひでいちさんのこと  
日本一の熊捕り名人 山を知り風を知る  
一シーズン三十二頭 記録持つ人
- 四、 知っていますか 保吉たけきちさんのこと  
奥利根の源流の森に育った  
栃の木で木鉢 彫り上げる人  
伝統の木彫り 受け継いだ人
- 五、 知っていますか 亨たけしさんのこと  
荷背負いなら誰にも 負けない力もち  
二四〇キロを かついだ人  
人間マル通と 呼ばれた人
- 六、 知っていますか 義一よしかずさんのこと  
白樺の幹から 郷土の人形  
大利根仙人 生み出した人  
ふるさと郷土館 造った人
- 七、 知っていますか 仁三にさぶ郎らうさんのこと  
「利根の山ならまかせてよ」と  
奥利根名ガイド  
十七歳で水源 きわめた人  
利根川水源 愛する人
- 八、 知っていますか 伊喜雄いきおさんのこと  
「利根川水源紀行」「藤原風土記」  
「俺の仕事は（俺一代）」  
本にまとめた人  
奥利根山岳会 会長さん
- 九、 知っていますか 男たちのこと  
利根源流に生きてきた  
誇り高き  
男たちの姿 忘れない  
いつまでもいつも 思い出す  
いつまでもいつも 忘れない

7 利根の吊橋

- 一、利根には大橋数あれど  
忘れられない橋ひとつ  
その名も西中通学橋  
沼田市の下河田しもかわたと薄根うすね 結ぶ吊橋
- 二、大きな大きな利根川に  
長さ一五〇メートル(巾せまく)八〇センチ
- 三、中学生の通学に  
地元が望んだ人道橋  
雨の碑 風の日 雪の日も  
渡る通学生は みな軽業師かるわざし
- 四、谷川仰ぎ 利根川とねがわまたぎ  
山霧 川霧 つつまれえ  
友と渡った三年間  
なつかしい思い出いっぱいいっぱいの通学橋
- 五、三十余年の時と経て  
やむなく閉鎖のこの橋を  
渡った思い出限りなく  
ふるさとの心に残る 利根の吊橋
- 六、お別れの時は ついに今  
風雪に耐えた この姿  
心に焼きつけ 忘れない  
いつまでも歌い継がれる 通学橋

8 利根川の歌

- 一、その昔 その昔  
父も歌いし 利根の岸  
母も歌いし 利根の川  
その心よ 想えばかなし
- 二、今もなお 今もなお  
歌い継がれる 利根川よ  
高らかに響く 学び舎に  
その歌声 こだまする
- 三、人はみな 人はみな  
若き日の夢 抱きつつ  
この川に歌う 青春の歌  
心のふるさと 利根川よ

9 川のおもいで

- 一、春は川辺のおままごと  
まあるい石のお皿には  
山吹の花のせましよう のせましよう
- 二、夏は水あび 魚とり  
子どもの歓声 水しぶき  
入道雲も光ってる 光ってる
- 三、秋は笹舟流しつつ  
下れば大川 その先は  
行ってはいけな川でした 川でした
- 四、冬は水車も凍ります  
長いツララをキラキラと  
刀のようにふりかざす ふりかざす
- 五、春・夏・秋・冬 川あそび  
川よ子どもよ 甦れ  
川のおもいでいつまでも いつまでも

10 群馬の川

- 一、群馬の大地 流れる川は  
たからがわ ゆびそ あかや うすね かたしな  
宝川・湯檜曾・赤谷・薄根・片品  
あがしまびわ  
我妻川に 万座・白砂・四万川  
うすい かなな かんすかわ  
碓井・鏑・神流は 烏川
- 二、群馬の大地 流れる川は  
荒砥・広瀬川・粕川・早川・桐生川  
矢場川・石田・谷田川よ 渡良瀬川は  
豊かな自然の 遊水地
- 三、群馬の川は 四百余り  
ゆるさとの川よ 思い出の川 なつかしい  
みな美しき川の名もちて 流れてゆくよ  
利根川めざして 流れゆく
- 四、群馬の川は 四百余り  
すべて利根川に 母なる大河に抱かれ  
利根川は 三百キロの 水の旅  
太平洋へと 流れゆく

11 奥利根の旅

- 一、ゆび先は夕やけ雲に触れながら  
谷川山頂別れを惜しむ
- 二、さまざまいて蓬味越えし夏  
おもえば何故か涙あふれる
- 三、山で会い山で別れし若者の  
最後のヤッホーはるかに響く
- 四、雪の白 ダム湖の碧あざやかに  
翼に染め分けカケス飛び交う
- 五、はるかなる山旅のはて利根川水源  
おおみなかみやま  
大水上山われひとり立つ
- 六、山々も清き流れもなつかしく  
心のふるさと奥利根のたび  
心のふるさと奥利根のたび

12 生命の利根川よ

- 一、ゆたかな生命の源よ  
ゆたかな生命の利根川よ  
さまざまな歴史 秘める流れは  
明日への希望 生みだすように  
明るい歌 うたいながら  
夜明けの海へと 流れゆく  
生命の利根川よ 利根川よ
- 二、やさしい生命の源よ  
やさしい生命の利根川よ  
原始からの恩恵 受け継ぐ川は  
明日への夢を 育むように  
やさしい歌 うたいながら  
はるかな海へと 流れゆく  
生命の利根川よ 利根川よ
- 三、清らかな生命の源よ  
清らかな生命の利根川よ  
高き嶺からの 雪どけ水は  
明日への祈り 届けるように  
清らかな歌 うたいながら  
海から空へと昇りゆく  
生命の利根川よ 利根川よ  
生命の利根川よ 利根川よ